

平成 29 年 度 自 己 評 価 表 （ 中 間 ）

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	1 自分の将来をはっきりと思い描き、その目標に向かって努力する主体性を育成する 2 社会のどこかを支える人間、一隅を照らす人に育てる 3 他者を思いやる優しさ(親和)、困難に立ち向かう逞しさ(克己)、探求しようとする積極性(進取)を育成する
---------------------------	---	----------------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 10月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 人間力の育成	①学習・部活動・学校行事の3点を全力で追いかけ、主体的に行動する生徒を育成する。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が約75%。 ○学校行事やボランティア活動等を主体的に取り組むことが出来ない生徒がいる。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が80%以上。 ○各種ボランティア活動や交流事業等に主体的に参加する姿が見られる。	○部活動終了時間を徹底し、家庭学習への取組を部顧問・学年で連携して指導する。 ○様々な活動に挑戦できるよう、広報方法を再検討し、生徒会執行部を中心に取組を進める。	○学習と部活動の両立ができている生徒は70%(生徒アンケート結果)。 ○個人・部活動単位ともにボランティア活動への参加は少ない。 ○福島ひまわりプロジェクトに多くの生徒が参加した。	C	○部活動終了後、速やかに帰宅し家庭学習に取り組むように部顧問・学年で連携して指導する。 ○ボランティア活動の広報方法を再検討し、生徒への周知につとめる。
2 学習指導の充実と進路指導の強化	②3年間を見通した教科指導体制の整備と「確かな学力」に繋がる主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	○複数の教科・教員が協同的な学習などの主体的・対話的で深い学びの実現に積極的に取り組んでいるが、広がりには十分でない。 ○大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、生徒の実態や教育課程に対応した学習指導の充実を図りつつある。	○各教科の授業でICTの活用や授業改革を進め、公開授業や研究授業を積極的に行っている。 ○全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る。	○ICTを活用した協同的な学習や英語ディベート等、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改革を各教科に広げていく。 ○生徒の実態や教育課程に対応した授業計画を立てて、3年間を見通した教科指導を実践する。	○iPadを授業等に活用する動きが広がっている。年度の後半に「学びの文化祭」等の公開授業・研究授業を行う予定である。 ○平均点偏差値は、全学年とも目標に近づいている。	B	○各教科で公開授業・研究授業を積極的に行う。「学びの文化祭」を職員研修のよい機会とする。 ○授業を中心に丁寧な学習指導に努めるとともに、進路意識を高める取組を進める。
	③将来の夢が語れ、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて主体的に努力する力を育成する。	○生徒との面談や「鳥取学」、各種講演会など、校内外の教育力を活用した結果、進路意識が高まりつつある。 ○授業に対する満足度は高いが、主体的・計画的に学習している生徒は約70%。 ○授業での図書館利用や図書館環境に工夫を施しているが、図書の貸出冊数は前年度より減少した。	○学年それぞれに応じた進路目標を持ち、学習に取り組んでいる。 ○生徒が自分なりの学習習慣と学習方法を身につけている。 ○家庭学習を毎日主体的・計画的に行っている生徒が75%以上。 ○図書館の利用者数や貸出冊数が増加する。	○「鳥取学」・研修旅行、各種講演会など、校内外の教育力を活用し、生徒が高い志を持ち、将来像を描けるようひきつづき指導する。 ○LHRや「総合的な学習の時間」を活用した進路プログラム、各学年の「進路だより」などにより、進路意識の向上を図る。 ○生徒との面談を通して、主体的学習や進路意識向上を促す。 ○授業及び図書館からの魅力ある情報提供をとおして、読書への動機付けをはかる。	○1年生で後期に「鳥取学」関連の行事を実施する。 ○学年に応じた進路目標を持つ生徒は74%(生徒アンケート結果)。 ○学習習慣を身につけている生徒は66%(生徒アンケート結果)。 ○計画的な家庭学習している生徒は70%(生徒アンケート結果)。 ○図書館の授業での利用回数と図書の貸出冊数が、昨年度より大幅に増加した。	B	○校外学習や講演会の内容をさらに充実させて、地元鳥取県に対する理解と愛着を深める。 ○学部学科講演会・研修旅行・校外学習などのキャリア教育の取組を通じて、進路意識を高める。 ○図書館と学年・教科の連携や生徒・職員への情報提供に今後も努める。
3 規範意識の向上と健康・安全管理の充実	④規範意識を持ち、健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。	○スマートフォン等の家庭での使用実態が十分把握できておらず、使用時間等も適切であるとはいえない。 ○自転車マナーについて、市民から指摘を受けることがある。登下校時の自転車による接触事故が減少した。	○スマートフォン等の使い方を含め、家庭における生活習慣(起床、帰宅、学習開始、就寝などの時間等)が確立している。 ○自転車マナーが向上し、登下校時の事故がさらに減少する。	○スマートフォン等の使用について、ルールやマナーを守るよう、粘り強く啓発する。 ○宅習時間調査・生活習慣チェックシート・各種講演会等を効果的に活用する。 ○決められた自転車通学ルートの通行を指導し、登下校時に定期・随時の交通安全指導を行う。	○家庭における生活習慣が確立できている生徒は75%(生徒アンケート結果)。 ○スマートフォンを不適切に使用する事例が複数あった。 ○自転車マナーに対する苦情は少ないが、自転車事故が増加した。	D	○QCCカードや登校時指導等を通じて、基本的な生活習慣を確立するよう、継続的に指導する。 ○スマートフォン使用について、東高ルールを守るよう、粘り強く啓発する。 ○自転車ルールの遵守・マナーの向上について、機会あるごとに指導する。事故後の対応についてあらかじめ指導する。
	⑤心身の健康を増進し、いじめや差別を許さない教育を推進する。	○少数ながら人間関係がうまく作れない生徒がいる。 ○不登校傾向の生徒が学年に数人いる。	○生徒が安心して生活を送ることができる学校である。 ○生徒の様子の変化に、学校として迅速・適切に対応している。	○hyper-QUIやいじめアンケート等を活用して生徒の状況を的確に把握し、迅速な対応を行う。 ○日頃から保護者と担任、学年と保健部の連携をはかり、必要に応じて外部専門機関の協力を得る。	○安心して生活できる学校と回答した生徒は95%(生徒アンケート結果)。 ○担任面談で生徒が相談しやすい環境作りに努めている。 ○スクールカウンセラーや外部機関と連携して迅速に対応している。	B	○生徒に関する情報共有を迅速丁寧に行うように、日頃から分掌・学年・管理職間の意思疎通を強化する。 ○外部専門機関との連携に継続して取り組む。
4 学校運営の点検と教育環境の整備	⑥地域と連携を強化し、PTA活動の充実・発展を推進する。	○様々な行事において地域との連携が進んでいる。 ○学校祭や進路講演会などの行事に保護者が積極的に関わっている。 ○教育相談委員会を定期的に開催し、生徒の実態把握や情報共有を行っている。	○中高連携教育や地元町内会との交流がさらに進む。 ○PTA行事に参加する保護者が増加する。 ○各種広報紙や学校ホームページ等を利用して、学校の情報公開を積極的に行っている。	○地域の小中学校行事に、部活動生徒や教員が参加・協力するなど交流を推進する。 ○生徒会執行部と近隣地域との交流に一般生徒の参加を推進する。 ○学校と保護者が協力して、学校ホームページを利用するなどPTA活動の広報に努める。	○前期は、生徒会と地元町内会との交流を行うことができなかった。 ○中学生1日体験入学で、模擬授業を行い、90名弱の中学生が参加した。 ○PTA行事の広報に力を入れ、毎回一定数の参加がある。	C	○地元町内会との交流について、生徒会執行部で在り方を検討する。 ○保護者のニーズにあった行事を企画する。 ○学校ホームページや各種印刷物を活用して、PTA活動の広報を積極的に進める。
	⑦各種広報紙の定期発行や学校ホームページの活用をさらに発展させて情報発信を充実する。	○各種広報紙を定期的に発行し、学校ホームページの活用も進んでいる。	○各種広報紙や学校ホームページ等を利用して、学校の情報公開を積極的に行っている。	○ホームページ作成委員会を中心に、学校ホームページの更新を組織的に進めるとともにアクセス数を増加させる。	○ほぼ毎日学校ホームページを更新している。 ○組織的な更新は十分とはいえない。 ○各種広報紙を定期的に発行して、保護者に情報提供している。	B	○学校ホームページのタイムリーな更新と内容の充実にも努める。

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]